

『夢の学舎』（仮称）づくり構想（案）

<本構想の趣旨>

同学舎は岩手の詩人宮沢賢治の科学と自然の共生をテーマに概念を構成した。

この夢の宿には旧山形村霜畑中学校・同小学校・繫小学校、全国から公募した農林漁業を目指す若者が入所する。また山形村で進めてきた都市部の山村留学希望者親子も同時に入所、自然や環境など学術研究者のITネットワークのサポートを17年度新設された光ファイバーで受けながら、語学、コンピュータ処理技術を重視しながらも、失われてはならない農林漁業の伝統的な技術を伝承し、技術を加え21世紀に必要な新しい技術の基礎として小・中学校一環システムで学ぶ。

<事業費>は市町村合併にかかる国と岩手県の支援プラン、「次世代を担う教育の充実」「新世紀に適応した産業の振興」プランのなか、「公立学校施設整備・農林水産業の振興・田園交流基盤整備・むらづくり維新森林山村都市共生」の各事業を導入、都市住民などを育成のための研修施設事業も兼ね、国の「資源循環型社会創出自然エネルギー活用技術プラン」により、研究やその実践検証を行える研究棟を作り、近くには牛や馬、鶏などを飼える畜舎、トラクタなど機械倉庫を併設したい。

<施設>は簡易宿泊施設も地元住民の協力を得ながら作り、山村留学制度の受け入れ態勢を整えるほか、学生や学術研究者の現場の調査など長期滞在の研究も可能にする利用しやすい宿泊施設を運営する。

また生徒や研究者にはにはITネットワークにより最新の学術や大学のテレビ授業も取り入れ、IT機器を充実させることにより都市との通信を容易にし相互の支援体制を作りたい。

<地域的環境>当地区は山間地ながら、海岸線や中小河川へのアクセスが1時間以内で、そのフィールドが多いことから、休耕地や国有林遊々の森、沿岸港湾を利用した実践的学習や学術研究を蓄積し、地元一次産業や関連産業のノウハウを高めながら新しい技術を開発することで、久慈広域の新産業開発を進め、雇用拡大を図る計画に役立てる。

<エネルギー資源>久慈湾は岩手4大重要港湾の一つである。この海域は年を通し海水温は25度を超えない北の有利性がある。すなわち二年コンブ（真昆布）など大型の海中林を通年造成可能で（資料コンブ造成ブロック）、ウニ・アワビの通年生産も同様である。久慈湾港防波堤の進捗によっては、増殖コンブの生産可能量は年5千トン～8千トン、食料のほかメタン発酵によるガス化やメタノール化は燃料電池の生産や直接の車両燃料化、捨てられていた間伐材の集積はコージェネシステムによる地域発電・配熱を可能にする。地域発電は送電ロス無くし、地域の危機管理にもなる。クリーンで尽きないエネルギー生産はCO2削減に貢献する。

久慈地方は畜産が盛んで、鳥、豚、牛の出す糞尿は平成16年10月より野積み禁止により、その処理に大きなリスクが発生している。これと6割以上山に捨てられている人工林間伐材そして海の海中林を組み合わせ無駄を省いた安定的な生産とコスト削減を可能にするため、学術の集積や研究施設として「学舎」は重要である。